

システム変更等のお知らせ

(2004.1.14 - 2004.3.8 変更)

システム運用掛

1 ハードウェア ... なし

2 ソフトウェア ... なし

2.1 HI - UX / MPP ; mpp-s, mpp-p, mpp-bt ... なし

2.2 VOS3 / FS ; m-vos ... なし

2.3 HI - OSF / 1 - MJ ; m-unix ... なし

2.4 HI - UX / MPP ; bulk-s, bulk-p, bulk-bt ... なし

3 その他

3.1 サービス形態の変更及び計算機利用負担金の改正について

前号でお知らせしましたとおり、4月1日よりSR8000/MPP及びSR8000/128のサービス形態変更と、計算機利用負担金の改正を実施します。これまでの基本負担金コースはパーソナルコースへ、定額負担金コース(バルクコース)はグループコースへと変更となり、これに伴い、計算機リソース、課金方式が大幅に変更となります。サービス形態の詳細については、本誌別記事「スーパーコンピュータシステムSR8000/MPP,SR8000/128 サービス形態の変更について」を御覧下さい。新計算機利用負担金については以下のとおりです。なお、各表に示している金額は利用開始月を4月とした時の金額(税込み)です。

・パーソナルコース

これまでの従量制課金を廃止し、現行の基本負担金3コース(月額1,500円、3,000円、10,000円)を以下のように定額負担金による年額の3コースに移行します。

1. 計算機利用負担金

区分	利用負担金	並列実行ノード数	長期保存ファイル ¹⁾		短期保存ファイル ¹⁾
			/home	/batch	/short/batch
パーソナルコース1	18,900円	1ノードまで	512MB	512MB	512MB
パーソナルコース2	37,800円	2ノードまで	512MB	512MB	512MB
	50,400円 75,600円	4ノードまで 8ノードまで			
パーソナルコース ³⁾	126,000円	16ノードまで	2GB	2GB	2GB

1) オプションにて追加可(最大8GB)

2) MPP オプション (年額 126,000 円、並列実行ノード数制限なし、/short/mpp-bt 2GB 含む) を追加可

(1) バッチジョブの実行は原則として SR8000/128 となります。

性能、主記憶容量がこれまで御利用頂いていた SR8000/MPP と異なるため、プログラムやジョブスクリプト等の変更が必要となる場合がありますので御注意下さい。なお、バッチジョブの実行に SR8000/MPP の複数ノード又は拡張記憶 (ES) の利用を希望する場合はパーソナルコース 3 を選択の上、別途 MPP オプションを追加して下さい。また、SR8000/128 の拡張記憶 (ES) を使用する場合はパーソナルコース 2 又は 3 を選択して下さい。

超並列ジョブ (128 ノード) 実行サービスについては 3.4 を参照して下さい。

(2) CPU 時間の上限値や課金額を気にせず年間を通じて利用できます。

コース、オプションによって利用できるジョブキューを制限しますが、利用できる CPU 時間には制限を設けません。但し、混雑時にはジョブスケジューリングによる調整を行う場合がありますので御了承下さい。

(3) 長期及び短期保存ファイル用のディレクトリーはそれぞれ /home、/batch 及び /short/batch となります。

バッチジョブ実行用に SR8000/128 に接続されたディスク /batch (長期) と /short/batch (短期) を利用することができます。/home (長期) は SR8000/MPP に接続されたディスクで、これまで御利用頂いていた長期保存ファイル /home を継続して利用できます。

(4) これまでどおり SR8000/MPP (mpp-s, mpp-p) にログインできます。

現行のログイン名、パスワードを継続して利用することができます。

プリンター出力サービスについては、オプションで設定していなくても初期設定額の 3,150 円分まで出力できますが、それを超えて出力する場合にはプリンターオプションの追加が必要になります。

なお、パーソナルコースでは別途届出により運用支援システム (VOS3 及び OSF/1) を利用することができます。

2. 追加オプション

パーソナルコース 1、2 (単位：円)

	ファイル量 (追加後の上限値)							
	1GB	2GB	3GB	4GB	5GB	6GB	7GB	8GB
長期保存ファイル /home, /batch	5,250	15,750	26,250	36,750	47,250	57,750	68,250	78,750
短期保存ファイル /short/batch	2,625	7,875	13,125	18,375	23,625	28,875	34,125	39,375

パーソナルコース 3、MPP オプション (単位：円)

	ファイル量 (追加後の上限値)					
	3GB	4GB	5GB	6GB	7GB	8GB
長期保存ファイル /home, /batch	10,500	21,000	31,500	42,000	52,500	63,000
短期保存ファイル /short/batch, /short/mpp-bt	5,250	10,500	15,750	21,000	26,250	31,500

プリンターオプション利用負担金 (単位：円)

1 オプション

3,150

・グループコース

これまでの定額負担金コース（バルクコース）はグループコースとして取り扱います。課金方式に大幅な変更はありませんが、計算機リソースに次のような変更がありますので御注意下さい。

1．計算機利用負担金（基本セット）

利用負担金	登録可能人数 ¹⁾	専用ノード	長期保存ファイル ¹⁾		短期保存ファイル ¹⁾
			/home	/batch	/short/mpp-bt
1,134,000 円	10 人	1 ノード	20GB	20GB	20GB

1) オプションにて追加可（最大 8GB）

(1) ログインするシステムが SR8000/MPP (mpp-s, mpp-p) になります。

従来の SR8000/128 (bulk-s, bulk-p) のインタラクティブによるサービスは SR8000/MPP (mpp-s, mpp-p) に移行し、ログイン名、パスワードは継続して利用することができます。

(2) バッチジョブの実行で SR8000/MPP を利用することができます。

性能、主記憶容量が向上するため、プログラムやジョブスクリプト等の若干の変更で、これまで以上に大規模な計算が可能となります。また、毎月 1 回、第一金曜日夕方から翌週月曜日（休日の場合は翌日）朝までの間に実施する超並列（128 ノード）ジョブ実行サービスを利用できます。（この間、専用キューと一部の共用キューは使用できません。超並列ジョブ実行サービス時のサービス構成については 3.4 を参照して下さい。）

(3) 長期及び短期保存ファイル用のディレクトリーはそれぞれ /home、/batch 及び /short/mpp-bt となります。/home（長期）、/short/mpp-bt（短期）は SR8000/MPP に接続されたディスク、/batch（長期）は SR8000/128 に接続されたディスクです。これまで御利用頂いていた長期保存ファイル/home は、SR8000/MPP に接続された/home（長期）に継続しており、これまでどおり利用可能です。

2．追加オプション

（単位：円）

利用登録番号 (1 個につき)	長期保存ファイル		短期保存ファイル
	/home (10GB につき)	/batch (10GB につき)	/short/mpp-bt (10GB につき)
25,200	100,800	100,800	50,400

3.2 ジョブスケジューリングシステムの変更について

2004 年 4 月 1 日よりシステム構成や課金体系が変更となりますが、有効且つ公平に計算機資源を提供するために、超並列型スーパーコンピューター SR8000/MPP 及びベクトル並列型スーパーコンピューター SR8000/128 において、バッチジョブ実行についてのジョブスケジューリングシステムの変更を実施します。なお、詳細については本誌別記事「ジョブスケジューリングシステムについて」を御覧下さい。

3.3 短期保存ファイル/short/mpp-s, mpp-p の保存期間について

4 月 1 日より短期保存ファイル/short/mpp-s と /short/mpp-p については特に利用負担金を

かけず、上限値制限も設定しないこととしております。それにあたり、これまでは 15 日をファイルの保存期間としておりましたが、不要になったファイルが期間を過ぎて消去されるまで残っておりますと、限られた資源が枯渇することも考えられるため、/short/mpp-sと/short/mpp-pの保存期間をこれまでの 15 日から 5 日に変更致します。利用される際は御注意下さい。

なお、利用負担金のかかる/short/mpp-bt と/short/batch についてはこれまでと変わらず、15 日を保存期間とします。

3.4 SR8000/MPP 超並列ジョブ (128 ノード) 実行サービスについて

これまで毎月第 1 金曜日夕方から翌週月曜日 (休日の場合翌日) 朝までの期間でサービスしている超並列ジョブ実行サービスは、2004 年度も同様にサービスを行います。それにあたり、超並列ジョブ実行サービス期間中にはシステム構成が変更となりますので、SR8000/MPP での一部のサービスが休止となりますので御了承下さい。また、サービス開始と終了の前後約 1 時間はシステムの切替作業を行いますので併せて御了承下さい。なお、P128 キューの利用はグループコース及びパーソナルコースで MPP オプションを設定している利用者を対象とします。

利用可能なサービス

インタラクティブ処理用サブシステム mpp-s.cc.u-tokyo.ac.jp

スカラージョブクラス A~F

並列ジョブクラス P001~P004、P128

SR8000/128 の各ジョブクラス (A~F、A-ES~F-ES、P001~P032) は利用可能です。

休止するサービス

インタラクティブ処理用サブシステム mpp-p.cc.u-tokyo.ac.jp

拡張記憶 (ES) 使用ジョブクラス A-ES~F-ES

並列ジョブクラス P008~P032

専用キュー

前述のシステム切替作業中は、SR8000/MPP (mpp-s, mpp-p) から SR8000/128 のバッチシステムへのジョブ投入はできませんが、既にバッチキューに投入されているジョブは通常どおり実行されます。その際、バッチジョブでのデータの読み書きは/batch 又は/short/batch で行って下さい。